



SHIMANE INFORMATION INDUSTRIAL ASSOCIATION

しまね情報産協

2008.1 第33号

社団法人 島根県情報産業協会



グロ（大田市五十猛町）：歳徳神を迎えて一年の豊漁や無病息災を祈願する小正月の行事。国指定重要無形民俗文化財

CONTENTS

- ② 中国経済産業局長 人の繋がりと独創的な発想を大切に
- ③ 会長 新年のご挨拶
- ④ 平成19年度情報化月間行事「しまね情報化講演会」
- ⑤ 島根県知事へ要望書
- ⑥ 組込みエンジニア/Rubyエンジニア育成講座スタート
- ⑥ 「しまね企業ガイダンス（東京会場）」に参加
- ⑦ 島根県の情報化推進に関する新年交流会
- ⑦ 第9回親睦ゴルフコンペ開催
- ⑧ 会員社紹介（第4回）株式会社日本ハイソフト・株式会社システム工房エム



人の繋がりと独創的な発想を大切に

経済産業省 中国経済産業局長 杉田 定大

平成二十年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

中国地域は、生産の緩やかな上昇や、堅調な輸出などにより全体として緩やかに景気回復をしているものの、地域間や企業規模間における格差、原油や原材料の高騰、サブプライム・ローン問題などの内外に様々な問題を抱えています。

また、中長期的には、他地域よりも急速に進む人口減少や少子高齢化、国際競争の激化、厳しいエネルギー・環境制約など、構造的な課題も抱えています。

中国経済産業局では、これらの諸問題を克服し、地域や企業において持続的な景気回復を幅広く享受すべく、以下の施策を全力で取り組んでまいります。

まず第一に、地域経済が自立的に発展するための基盤整備を行います。中小企業地域資源活用プログラムや企業立地の促進等の従来からの施策に加え、本年からは地域の農林水産業、商工業等の産業間での連携を強化し、地域産品の商品開発や販売促進等を支援する農商工連携による地域活性化にも取り組んでまいります。

地域の活性化のためには、中小企業への支援も不可欠です。中小企業の生産性向上に向けて経営力の向上等の支援を行うとともに、特に、地域でがんばる小規模事業者には各地に支援拠点を整備し、力強く応援してまいります。

第二に、産学官連携による地域イノベーションを強化し、新産業の創出を図ってまいります。この地域イノベーションを促進する事業環境を整備するため、当局では産業クラスター計画を推進しております。その一環として、自動車関連産業におけるエレクトロニクス化への対応や、地域の強みを活かした産学官の顔の見える人的ネットワークの拡大などを図っております。また、複数の中小企業が強みを持ち寄り新事業の展開を図る新連携事業も推進しており、引き続きこれら施策に取り組んでまいります。

第三に、原油や原材料の高騰、環境問題への意識の高まりを踏まえ、省エネルギーの推進や新エネルギーの導入を促進するとともに、安全を大前提とした原子力発電の積極的な推進を図ります。さらに、環境と経済の両立した循環型社会の形成に取り組むことにより、総合的なエネルギー環境対策を講じてまいります。

私は、昨年七月に就任以来、地方自治体、企業、地域のリーダーなど数多くの方々と接する機会を得て、地域について多くのことを学んでまいりました。その中でも、鉄鋼、化学、自動車、液晶・半導体といった製造業の積極的な展開や、境港市におけるマンガ・アニメなどのコンテンツを活用した地域の活性化などをつぶさに見ると、当地域は、ものづくりへの情熱やクリエイティブな発想を持った人々によって支えられていることが分かります。

当局では、このような人々の繋がりによって形成される地域や企業が持続的に発展できるよう、全力で支援してまいります。

最後になりますが、本年の皆様の御活躍と御発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

社団法人 島根県情報産業協会 会長 多久和 厚

新年、明けましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

2008年は、新年早々から1バレル100ドルという原油価格の暴騰と大発会での株価暴落で波乱のスタートとなりました。サブプライム問題を抱える米国と北京オリンピック後の中国が経済減速となる可能性も指摘され、本年の国内景気は楽観視出来ません。

さて、情報産業に目を向けてみると地域の壁を越えるはずの業界が多くの業界と同じような「格差問題」に陥っています。それは、人・もの・金が集中する東京に情報産業も一極化していることです。地方産業の目玉であるはずの情報産業が同業者への派遣か、下請け、孫請け体質から脱却できない現実を抱えています。これは業界全体に言える事で島根県に限った話ではありません。

ならば島根県の情報産業はどこに向かうべきなのでしょう。去年は溝口知事に「情報産業の振興と人材育成に関する提言書」を提出いたしました。特段のご配慮を戴き「しまね産業活性化戦略」の一次取りまとめにおいては「IT産業の振興」を重点項目に加えて戴く事が出来ました。既に、昨年後半から「組み込みエンジニア」と「Rubyエンジニア」の育成講座がスタートしており全国的にも注目を集めています。

本年も新年早々（1月8日）溝口知事に「情報産業の振興に関する要望書」を提出させて戴きました。内容は本会報（抜粋）やホームページに掲載されている通りです。業界としては県外からの受注が増大している傾向にありますが逆に県内は減少傾向となっています。開発技術者の育成だけでは人材不足の都市部へ人材流出が起きる可能性もあるので、島根に仕事を切り分けて持ち帰ることの出来るシニア技術者の育成も進めていく必要があります。また、島根県がRubyを中核としたOSSの先進県となることも求めています。ここ1～2年が情報産業振興の勝負の年となります。

島根県の高専、大学、大学院生の75%～80%が県外に就職するという課題も抱えています。これは高学歴者が残りにくい産業構造が原因と考えています。その点、情報産業は高学歴者の流出を食い止める切り札となると期待出来ますので、我々業界が一丸となって島根県に新しい潮流を起こそうではありませんか。

本年もみなさまのご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

しまね情報化講演会

平成19年度情報化月間行事

日時 平成19年11月5日(月) 14:00~15:30
会場 テクノアークしまね 大会議室 (松江市北陵町1)
主催 島根県情報産業協会
参加者 119名



ビル・トッテン氏

講師 **ビル・トッテン氏** (株式会社アシスト代表取締役)

演題 **「これからの日本、これからのIT産業」**

(講演要旨)

昨年日本国籍を取ったビル・トッテン氏。1970年当時、IBMがハード・ソフト分離に追いこまれてパッケージソフト・ビジネスが始まった。その後通信が進歩し、各地に技術者集団を配置した拠点を自社で置く時代ではない、むしろ各地の企業と連携するほうが良い、と考えている。

自社でパッケージを売りつつもオープン・ソース・ソフトウェア(OSS)への流れを強く感じている。OSSは「所有権がない、勝手に修正できる、公開された」ソフトと解釈すべきだ。クローズドソフトは「所有者が値段、使用条件を決めて支配する非公開のソフト」と言える。ユーザの要求を満たすソフトが無料であれば、有料ソフトを購入するはずがない。

作る側、売る側の都合で個々のユーザに不要の機能までも網羅したソフトウェアが氾濫している。ソフトの機能、コンピュータの性能が上がるほど、技術者の能力は落ちてきた。企画部を社内に置くことを許さないトッテン社長。頭を使うより、耳と足を使って本当のユーザニーズを探れと指導する。自分の頭だけで作ったものはユーザニーズから乖離し、無駄に終わる、と耳に痛い話も。

著作権はごく最近の考え方にすぎない、科学技術は著作権がないから進歩した、古典(文学、音楽など)は無料だから先人の業績に付け加えてさらに良いものに発展させていくことができたとの持論を展開。

非公開ソフトで危惧されることに、セキュリティの心配がある。気が付かないうちに敵対国にソフト、サーバを支配され情報漏洩の恐れがあるとしたら、そのようなオペレーティング・システムやソフトは使いたくないだろう。OSSに国を挙げて切り替えている例もある。

地球は石油枯渇の方向に向かっている。これからは食料を自給する時代に。「ITは場所を選ばない、島根県など地方に優位性がある。」と話を結んだ。(文責 事務局)

講演するビル・トッテン氏



写真提供・三島治氏



溝口知事に要望書を提出

島根県知事へ要望書

平成20年1月8日多久和会長、吉岡、秀浦副会長が島根県庁において溝口善兵衛知事に「情報産業の振興に関する要望書」を提出しました。

情報産業の振興に関する要望書 (概要)

島根県情報産業協会は、情報産業の振興を通じて島根県の経済発展に寄与することを目的として活動をしております。

さて、先般発表された「しまね産業活性化戦略」の第一次とりまとめにおいて新たに「IT産業の振興」が重点項目に加わりました。当協会として島根県方針に賛同すると共に「IT産業振興策」により、情報産業が県内産業の柱の一つとなるよう最大の努力を惜しまない所存です。

島根県方針を達成するために当協会として次の二点について要望します。

平成20年1月8日

社団法人 島根県情報産業協会
会長 多久和 厚



知事に要望書を説明

要望1 「県外ビジネスを促進する為の支援策」(抜粋)

- 1-1 外貨獲得が出来るIT技術者教育への支援(*)
 - シニア技術者教育コースの創設
 - 県外シニア技術者研修費用の補助
- 1-2 県外ビジネス推進のための支援

要望2 「島根県はOSS(オープンソースソフトウェア)の先進県を目指せ」(抜粋)

- 2-1 Rubyを中核としたOSSによる庁内システムの構築
- 2-2 OpenOfficeを県標準にする
- 2-3 OSS先進自治体の事例研究と情報交換を実施
- 2-4 OSSをサポートする企業との連携、誘致

要望書の全文は当協会ホームページに掲載しています。

<http://www.web-sanin.co.jp/or/sangyo/h20-0109/01.htm>

(*)「外貨獲得」とは「県外ビジネスの呼び込み」を意味するものです。

ITエンジニア育成講座スタート

平成19年11月より、財団法人しまね産業振興財団の「組み込みエンジニア/Rubyエンジニア育成講座」がスタートしました。

これは島根県およびしまね産業振興財団が地域IT産業を支える優秀な人材の育成を図るため、「組み込みソフト」や「Ruby」に関する講習を実施するものです。

当協会は島根県に対して人材育成への取り組みを強く要望してまいりましたが、事業が具体化したことはたいへん喜ばしく、島根県のご理解に深く感謝するところです。本講座には、当協会会員企業が事業企画、カリキュラムの立案、講師派遣など、協力しています。

次年度以降もこの事業を継続していただくよう、島根県に要望しており、会員の皆様にも本講座を積極的に活用して教育、スキル向上に努めていただきたいものです。

Rubyエンジニア育成コース

Linux入門コース (3日間)

Ruby入門コース (2日間)

Ruby On Rails入門コース (3日間)

Agile (アジャイル) 開発コース (3日間)

Ruby On Rails運用コース (3日間)

組み込みシステムエンジニア育成コース

組み込みeラーニングコース (60時間)

組み込み入門コース (金・土開催、延べ11日間)

組み込み実践コース (金・土開催、延べ31日間)



Rubyエンジニア育成講座
写真提供：しまね産業振興財団

しまね企業ガイダンス(東京会場)に参加

平成19年12月1日、財団法人ふるさと島根定住財団主催(当協会共催)により、しまね企業ガイダンス(東京会場)が東京・秋葉原UDX 4階UDXギャラリーで開催され、当協会からも9社が参加しました。当日は、まつもとゆきひろ氏(株式会社ネットワーク応用通信研究所)の講演が行われました。



企業説明会

続いて各企業のプレゼンテーションと企業ガイダンスが行われ、東京在住の大学生、UIターン希望者70名が各企業の担当者と熱心な情報交換を行いました。



講演会

写真提供：ふるさと島根定住財団

島根県の情報化推進に関する新年交流会

【日時】平成20年1月11日(金) 17:00~19:00

【会場】ホテル一畑 平安の間 (松江市千鳥町)

【主催】島根県ケーブルテレビ協議会、
島根県情報産業協会

【参加者】41名

恒例の新年会に替えて、島根県ケーブルテレビ協議会と共同で新年交流会を開催しました。来賓に島根県商工労働部産業振興課長 楫野弘和氏、地域振興部情報政策課長 中島哲氏をお迎えし、直前に行われた「島根県の情報化に関する勉強会」で講師を務めたフジテレビラボLLC社長 時澤正氏にも参加していただきました。新年交流会には当協会会員32名を含む総勢41人が出席し、なごやかな懇談と有益な情報交換を行いました。



楫野課長挨拶



中島課長挨拶

直前に行われた総務省中国総合通信局、島根県主催の「島根県の情報化に関する勉強会」には当協会会員34名を含む59名が参加。多久和会長から島根情報産業の現状と課題、島根県知事への要望書の意図などについての講演があり、続いて、ユーザー発信型映像サイト「ワッチミー！TV」を運営するフジテレビラボLLC時澤氏より、映像サイトの現状と企業化への狙い、今後の見通しについて、熱く語られました。



新年交流会



勉強会で講演する時澤氏

「ワッチミー！TV」を運営するフジテレビラボLLC時澤氏より、映像サイトの現状と企業化への狙い、今後の見通しについて、熱く語られました。

第9回 親睦ゴルフコンペ開催

当協会懇親ゴルフ大会が平成19年11月17日(土)、出雲空港カントリー倶楽部で11社14名参加により開催されました。心配された雨もあがり晩秋の紅葉の中、会員相互の親睦とお客さまとの交流を深めて、にぎやかで楽しい一日となりました。

また協賛賞品も多数提供していただき、ドラゴン賞、ニアピン賞、飛び賞など参加者全員に賞品が行き渡り盛大な表彰式を行いました。
成績は次のとおりです。



表彰式



参加者一同

- | | | |
|---------|---------|-----------------------|
| 優勝 | 石碕 修二 様 | (株)オネスト |
| 2位 | 尼ヶ崎幹夫 様 | ごうぎんシステムサービス(株) |
| 3位 | 多久和 厚 様 | (株)ワコムアイティ |
| ベストスコア賞 | 尼ヶ崎幹夫 様 | ごうぎんシステムサービス(株) スコア85 |

株式会社 日本ハイソフト

〒693-0035 出雲市芦渡町695-1
 代表取締役 杉原 悟
 TEL 0853-23-0098 FAX 0853-23-0115

1984年会社設立以来、一貫して「一般企業向け業務用パッケージソフト」の開発を手掛け、パッケージソフトADVANCEシリーズ（販売管理・財務会計・工事管理・減価償却など）においては累計で500社を超えるお客様にご使用いただいております。特に中小企業の皆様にとって使いやすく、付加価値の高い製品をご提供できるように、新技術の評価を積極的に行っております。

またサポートサービスに注力しており、パッケージのサポートはもとより、出雲・松江などの総合病院のオペレーション業務を補佐する「運用支援業務」も着実に実績を積んでおります。

さらに西日本事業部及び東日本事業部も協力会社が増え、サポート体制も整いつつあり、コンピューター導入企業に対して、システムの企画・提案・開発・運用指導・保守などトータルなサービスを提供しています。また、個人情報保護の観点からプライバシーマークを昨年5月に取得しました、今後人材派遣業へも力を入れ、さらなる業務拡大を目指していききたいと思います。



日本ハイソフト事務所

株式会社 システム工房エム

〒690-0017 松江市西津田3丁目2-3
 代表取締役 持田 朝子
 TEL 0852-23-8590 FAX 0852-23-8591

我が社は1984年（昭和59年）に創業し、1987年に法人化しました。

当時はソフト会社が少なく、初めて税務署へ申告した際には当てはまる業種が無く、職員の方と業種一覧表の中から探した程でした。その後、時代は大きく変わり、その流れに沿って開発していくソフトも変わって行きました。

Web上のシステムとしては「Web車体修理見積り」、「保育園向けライブカメラシステム」、「学校用、防犯用連絡網版システム」があり、学校用連絡網版は共稼ぎ家庭が増え、保護者間の連絡がスムーズに進まない



システム工房エム事務所

事からPTA、学校から声が掛かり、需要が増えてまいりました。又、昨年10月には聴覚障害者向け「Webしまね110番」を手掛け、関連する方面に広がりが見えています。

保育園向けのライブカメラシステムを製品化した頃から、仕事と子育てで奮闘中の働くお母さんのお手伝いをしたいと思い「子育て支援システム」の構想を考えています。

この松江に根付いた会社として地域に役立ち、又地域ぐるみの子育て支援システムも進めたいと思います。